

# 船舶事故調査報告書

令和2年1月22日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和元年9月8日 16時45分ごろ
発生場所	愛媛県 <sup>やわたはま とび</sup> 八幡浜市鷺ノ巣鼻西方沖（ <sup>おきのぼえ</sup> 沖 落） 伊予小島灯台から真方位041° 1,550m付近 （概位 北緯33° 23.3′ 東経132° 22.8′）
事故の概要	プレジャーボート 242 <sup>リミテッド エス</sup> Limited Sは、北北東進中、浅所に乗り揚げた。
事故調査の経過	令和元年9月26日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート 242Limited S、2.5トン
船舶番号、船舶所有者等	230-52305愛媛、有限会社水沼鉄筋
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊
負傷者	なし
損傷	船尾部船底外板に破口及び擦過傷
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北西、風速 約1.1m/s、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の末期、潮高 約187cm（宇和島）
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者2人を乗せ、GPSプロッターの電源を切った状態で北北東進中、船長が、沖落（浅所）が存在することを知っていたものの、同乗者との会話に夢中になっているうち、沖落に乗り揚げた。 本船の喫水は、船首約0.6m、船尾約0.7mであった。
分析	本船は、北北東進中、船長が、沖落が存在することを知っていたものの、同乗者との会話に意識を向けながら航行していたことから、沖落に向かっていることに気付かず、沖落に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、北北東進中、船長が、沖落が存在することを知っていたものの、同乗者との会話に意識を向けながら航行していたため、沖落に向かっていることに気付かず、沖落に乗り揚げたものと考えられる。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・航行中は、他のことに集中せず、操船に専念して船位の確認を適切に行うこと。